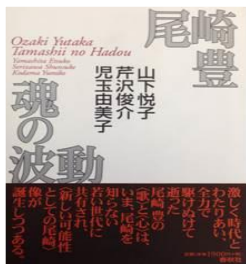


読んでみたい一冊



『お国柄ことばの辞典』  
著者 加藤迪男  
発行社 東京堂出版  
2012年1月30日発行  
2200円+税

全国のお国を象徴する言葉を集めた本。伝統的な言葉や割と新しめのものがあったり、お国柄を表す言葉が変化したり、現代にまで受け継がれてきていることが感じられます。お国ことばは、それぞれの地方だけで使われることばのこと、つまり方言のことである。それぞれの言葉の背景には、背景となる時代が感じられ、そのときの俗説や俗言、俗諺、等もある。なかには、はっきりと迷信とわかるものがあるが、当時はそのような迷信が信じられていたので言葉ができたのだと知ることができる。そして、戒め、教訓めいたものもあれば、天気、気象にまつわる俗説やことわざもあり、日本の中で発展してきた言葉の奥深さを感じることができる。  
テレビで聞いたものから古くから言い伝えられたものまで、地域の文化が色濃く反映しているのだと本書を読んで知ることができる。



お薦めの一冊

尾崎豊 魂の波動

山下悦子 (著), 児玉由美子 (著), 芹沢俊介 (著)

山下悦子(女性史研究家、文芸評論家)、芹沢俊介(評論家。家族、子供、学校問題を展開)

児玉由美子(岡山県立大学助教授。環境造形作家、尾崎豊研究会主宰)

この3人の著者が尾崎豊について様々な分析をしています。

対談や解説を通じ、多角的に尾崎豊の生い立ちや時代背景から全作品などを、世代を越えて徹底して探る内容です。

山下：尾崎の歌詞を読むと都市空間にたいして、非常に暗いイメージがありますね。

哀愁があるというか・・・。

芹沢：若い人が感じる孤独みたいなものを全身全霊で背負わされちゃったというところがあります。

児玉：尾崎の歌に頼るほかないのだと思うのです。



～長期貸出期間のお知らせ～

7月22日(金)からスタートしました。  
返却日は、9月23日(金)となります。

是非、有効にご利用ください。

読んでみたい本があったら  
図書館スタッフまで  
遠慮なくたのんでね！

